

令和5年度前期総合経営学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S231001 経営の基礎 I	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。高校生から(本学)経営学部学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、経営学部学生としてのスチューデント・スキルを身につけるとともに、経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる資質・能力を育成する。	他ゼミとの合同授業による講義がほとんどで、授業課題の添削指導だけに終わる。授業目標を個々の学生が身につけたかどうか判断しづらい面もあったが、多くの学生は遅刻、欠席もほとんどなく意欲的に取り組めた。学生の学習の振り返りをする場面で個別に面談などをして指導する機会を持つとさらに効果がでると考える。	添削指導、フィードバックに時間をかけると同時に、ユニバ等を効果的に利用して、きめ細かな指導を図っていききたい。	授業評価4.10 回答率66.7% 科目GPA2.92
S231002 経営の基礎 I	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	他ゼミとの合同授業が多く設定されたことで、学生にとって良い刺激が得られた。学生たちにはまず授業に対し欠席をせずレポートを必ず提出し、生活も規則正しくリズムを作るよう指示した。また、個人面談を全員に1回ずつ行い、授業を欠席した者には、適宜面談を行ったことで、学生の把握ができた。	個人面談は効果があり、学生の把握ができたが、もう少し突っ込んだ内容の把握が必要である。特に、後半になって気が緩む傾向が出てくるので、来年は7月にも再度面接ができれば実施していきたい。	授業評価 4.49 回答率100% 科目GPA3.18
S231005 経営の基礎 I	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	本学の施設等の案内などからなる“大学生入門”から初めて、外部講師によるキャリア形成に関する授業および経営学の入門の授業を行った。今年度の受講生は全員(11名)新入生であった。1名が欠席過多で不合格となったが、残りの10名は問題なく単位を取得した。	グループワークを含む授業にしていききたい。	授業評価4.86 回答率81.8% 科目GPA3.45
S231006 経営の基礎 I	①他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 ②経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 ③講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。 高校生から(本学)経営学部学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、経営学部学生としてのスチューデント・スキルを身につけます。	履修者数は経営学部総合経営学科1年の日本人学生10名であった。そのうち、北海道から1人、沖縄県から2人が出席していた。前期は対面授業であったので、毎週の学習内容に従って授業を進めた。課題等の提出状況は、授業の当日提出する学生がほとんどであった。大方の学生が毎週の学習に取り組み、課題、および定期レポート試直接、手渡しで提出し、ほとんどの学生がこの科目に合格した。途中、学習意欲が減退し、退学を申し出て、沖縄へ帰国した学生がいた。また、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してくる学生がいたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。全体として真面目に取り組む学生が多かったので、授業自体は進めやすかった。	80%近くの学生が高い評価をしてくれた。このクラスは、履修学生10人のうち、1名の退学者を除いて、全員が合格した。また、科目GPAは3.10と比較的高かったため、全体として、学生たちの学習に対する姿勢が素晴らしかったと言える。今後は、休学や退学をしないよう学生の勉学上、学生生活上のケアをする必要があると思われる。	授業評価4.575 回答率80.0% 科目GPA3.10
S231007 経営の基礎 I	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	本学の施設等の案内などからなる“大学生入門”から初めて、外部講師によるキャリア形成に関する授業および経営学の入門の授業を行った。種々の分野の講師が授業を行うことで、いわゆる経営学だけではなく、様々な側面から学習することができた。大人数での授業であったが、個々の学生にコメントしながら授業課題の返却を行うなど、個々の学生とのコミュニケーションに務めた。	種々の分野の講師による経営学の様々な側面からの授業により、受講生は飽きることなく新鮮な気持ちで学習できたように思われる。大人数の授業で、個々の学生と話をする時間が少ないので、授業課題の返却時に、できるだけ多くのコメントをしてコミュニケーションをとっていききたい。	授業評価4.13 回答率72.7% 科目GPA3.09
S231008 経営の基礎 I	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。以上の3点を到達目標としている。高校生から大学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、大学生としてのスチューデント・スキルを身につけることを教育効果としている。	学生は中国人留学生一人と日本人八人(男九人)。休憩時間になってもお互いに会話を展開するような学生はほとんどいなかった。しかも欠席がちな学生もいた。密に連絡を取りながらきめ細かい指導を心がけた。	授業評価は高いと言える。しかし、回答率が低いので、慢心は禁物である。一人一人に寄り添い、授業についてこれない学生を一人でも減らせるよう努力していきたい。	授業評価4.70 回答率22.2% 科目GPA2.33
S231009 経営の基礎 I	達成目標 他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	実際の授業コンセプトを、達成目標に即したものに担当者の話し合いで改善した。今年度は、1年生全員を大教室で実施した。手書きで提出する課題にはある程度対応できた欠席が多く、対応できない学生が散見された。個別の対応をしていくには、大教室、全体で実施する授業比率を下げ、少数で指導する必要性を感じた。	欠席がなければ、評価がSとなった学生が、数名存在するという状況で、受講生のGPA向上、達成目標に到達できるかは、出席率に関係する。授業自体、担当教員の持ち回りで行われており、課題の記述の仕方を指導する以外、対応の方法がない。担当教員の授業内容、課題内容については、いくつか、より丁寧な授業が求められる。	授業評価4.45 回答率70.0% 科目GPA2.78

S231009 現代生活と会計【商教必】	帳簿記入をする上で簿記一巡（貸借対照表および損益計算書を作成するまでの流れ）を理解することができる。 基本的な項目である現金の処理、商品売上の処理、手形の処理を理解し、会計処理することができる。 企業は、お金に関する記帳をしています。これが簿記です。この簿記は、複式簿記と呼ばれ、財産やもうけを把握します。マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけることを目的とします。	授業内課題の提出率が低く、授業外課題も提出率がさらに低かった。そこで、終了時間の少し前に問題を解く時間を与え、未提出率を減少させたため、授業評価の改善につながった。コロナでの欠席が多く、課題提出についても回収が困難だった。大半の学生が理解できたと思われるが、翌年になると忘れていたことが多いので繰り返し、復習ができるようにしていきたい。	授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものとする。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。 コロナで欠席した学生をどのようにしてフォローするか今後の課題である。	授業評価4.39 回答率64% 科目GPA2.64
S231010 現代生活と会計	帳簿記入をする上で簿記一巡（貸借対照表および損益計算書を作成するまでの流れ）を理解することができる。 基本的な項目である現金の処理、商品売上の処理、手形の処理を理解し、会計処理することができる。	簿記の経験者も多く、そうした受講生にはたやすい授業になるが、他方で留学生や簿記の初学者も多いので、言葉をできるだけ限りはっきりとし、丁寧な説明を心掛けた。簿記は理解するだけでなく、演習問題を繰り返し実施しないと身につかない科目であるが、多数教授の中で、十分な演習時間を取ることに難しさを感じた。	簿記は、勘定科目を言語として用いている。勘定科目を理解すれば、ほぼ全てが理解できる。勘定科目は、漢字を見れば、おおよその意味はわかるものであるが、近年は、非漢字圏の留学生が増えているため、理解が難しくなっている。用語の意味の説明等に時間がかかり、やはり演習問題を解く時間の確保が難しいが、できる限り、時間の確保に努めていきたい。	授業評価 回答率 % 科目GPA2.16
S231011 現代生活と会計 再履修	帳簿記入をする上で簿記一巡（貸借対照表および損益計算書を作成するまでの流れ）を理解することができる。 基本的な項目である現金の処理、商品売上の処理、手形の処理を理解し、会計処理することができる。 企業は、お金に関する記帳をしています。これが簿記です。この簿記は、複式簿記と呼ばれ、財産やもうけを把握します。マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけることを目的とします。	最後まで出席した学生は何か単位取得できたが、欠席した学生をいかに登校されるかが課題である。	再履修クラスのため、欠席者以外でも嫌になった学生がいるので計算問題に時間をかけていきたい。授業評価に関しては、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものとする。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。	授業評価4.80 回答率42.1% 科目GPA2.16
S231013 異文化理解	国際ビジネスの素養として、自国の文化とは異なる諸文化についての理解を深めることができる。様々な国・地域の文化の共通点・相違点を把握し、諸文化を尊重する態度を養うことができる。以上2点を到達目標としている。上記の目標に沿って、様々な国・地域の文化について学ぶことを教育効果としている。	学生は中国出身一人(男一人)のみだった。しかも、彼自身が日本という異文化空間の中で生活しているため、授業自体はやりやすかった。きめ細かい指導ができた。世界の文化について、学生は知らないことばかりで、興味をもって授業に参加していた。	残念ながら唯一の学生からの回答はなかった。コロナ明けは学生数が増加し、しかも多国籍になるので、それに応じたやり方を工夫しなければならぬと思う。	授業評価 - 回答率 0% 科目GPA4.0
S231014 スポーツ科学概論	達成目標 スポーツに関わる者として必要であるスポーツ科学および周辺知識を習得できる。 スポーツ科学全般に加えスポーツ振興政策と社会体育論、スポーツに関する法的知識、スポーツ心理学、スポーツ組織論についても理解できる。 対象者の年齢に合わせたスポーツ指導の方法を理解できる。	概論ということで、スポーツ科学のあらゆる分野の授業を、1回、ないしは2回で、ある程度、その分野の知識、雰囲気を理解してもらおうことに主眼を置いている。今年度、4年目、昨年の内容をさらにブラッシュアップして指導した。 90分の対面授業中に授業課題を行う形式で、欠席しなければ、単位の取得は難しくない。	最終的に受験不可6名、再試未受験で2名以外は、妥当な成績評価(配分)となった。 B、Cとなった学生が、単純に、ノートテイキングができない、課題を記述する上にあたって、文章が書けないのいずれかであった。1年前期の科目であり、授業内容はもとより、授業の受け方、課題の記述の仕方等を丁寧に指導して、今後につなげていくことが肝要である。	授業評価4.16 回答率82.1% 科目GPA2.04
S231015 専門ゼミナール I	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	経営上の様々な問題を考えるために必要となる金融経済的な基礎知識を身につけられるよう、自著である『はじめての金融リテラシー』をつかって、テーマごとに担当者を決めて、発表と討論を行った。 基本的な金融経済知識に乏しい学生が多く、この授業を通じて多くの知識を身につけることができたのではないかと考える。	学生のプレゼン能力がより高まるよう工夫していきたい。	授業評価4.80 回答率35.3% 科目GPA2.71
S231016 専門ゼミナール I	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	2年生の前期専門ゼミは、ITパスポートの資格取得がきっかけだったが2名の合格であった。 自宅学習がないためITパスポート試験を受験しても点数が伸びていないのがわかった。	学生自らの学習が見受けられない。今後課題等に工夫が必要である。	授業評価4.53 回答率33.3% 科目GPA2.44
S231017 専門ゼミナール I	達成目標 経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	ケースの選択にあたって、誰でも知っている身近で親しみやすい商品や企業を取り上げた。 各自で行ったケース分析の結果をメンバーで共有し、人の意見を参考にしながら思考する探求力を身につけるように心掛けた。	ディスカッション能力の向上を目指すと共に、経営に対する関心も高められるように指導したい。	授業評価4.62 回答率64.7% 科目GPA3.06
S231018 専門ゼミナール I	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の専門教育を履修していく、自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てます。この関心や興味を履修モデルによる学習計画に反映され、総合経営学科の様々な分野の中から、自らの能力や適正にあった学習志向を見定めるよう支援します。	コスト管理を理解するために原価計算検定初級に挑戦してもらった。計算するにあたって考えすぎる学生が多く、自信がないように思えた。そこで多くの問題をこなして自信をつけさせ挑戦してもらった。予想より合格者が多く安心した。次年度も同様の対応をしていきたい。	授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものとする。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の時間は必要であり、工夫したい。	授業評価4.60 回答率50.0% 科目GPA3.93

S231019 専門ゼミナール I	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てる。この関心や興味を履修モデルによる学習計画に反映され、総合経営学科の様々な分野の中から、自らの能力や適正にあった学習志向を見定めるよう支援する。	質問については、積極的にしてもらおうようにした。前半は、身近な法律の論点を全員で検討し、発言するように指導した。後半は、公務員試験問題などを利用して、法律の基礎問題を学習した。とりわけ国語の読解問題では、学修スキルを高めることができた。論述課題を与えたところ、作成方法がしっかり把握できていなかったため、何度も指導した。文を要約する技術を習得させ、論文作成力を身につけさせたい。与えた課題は、最終的にはそれぞれの学習到達度を把握することができた。ゼミ生全員による発表する機会として、グループ発表も設けていきたい。	学習の進捗を確認して、個別にアドバイスすることができた。法律問題は比較的身近な話題を取り上げ、丁寧に解説することを心がけた。公務員試験対策では、基礎学習を繰り返し徹底することで、実力を身につけたい。発表する機会が少なかったため、興味のある話題を設定してグループ発表を設けていきたい。	授業評価4.66 回答率94.1% 科目GPA4.00
S231020 専門ゼミナール I	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てます。	今年度はハンドボール部所属学生が7名も所属することとなり、正直彼らの言動に左右されてしまう面も否めなかった。全般的に第二希望以降で入ってきたゼミ生が多く、意欲面では昨年度のゼミ生よりも低めだったが、ゼミ自体を楽しんでいるグループもあり、ゼミ生によって傾向が異なる感があった。	1人退学者が出たものの、授業評価値自体は昨年度より向上。ただ回答率は低下しており、二極化の傾向にあるとも考えられる。ゼミで課題に取り組むことの楽しさを何とか伝えるべく試行錯誤が続いている。	授業評価4.733 回答率52.9% 科目GPA2.06
S231022 専門ゼミナール I	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	教員が用意した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルについて学習した。主に、読む、書く、まとめる、といった学修スキルに加え、PC等を用いたレポート作成やプレゼンテーション資料の作成を行った。 レポート作成や卒論作成に繋がる基本的なスキルの学習であるが、繰り返し行うことで、個人差はあるが少しずつ向上していたと感じている。また、PCスキルについても同様で、普段からPCを利用する機会の有無により、理解度や習熟度に差はあるが、少しずつ慣れていくことができたと感じている。	全ての回について対面形式でのゼミナールを実施した。解説と課題作成、PCスキルについての理解を深めることができるように工夫した。少人数ではあるが、今回、課題の難易度については若干高いものを選択した。PCの所有やスキルに差があり、実際にPCを操作する機会は少ない学生にとっては難しい課題であった可能性もある。今後は、難易度の高い課題を取り入れる際には、履修者の思考力や読解力、PCスキルの状況を見極め、解説等の量を増やし、理解度の向上につなげていきたいと考えている。	授業評価4.650 回答率47.1% 科目GPA2.00
S231023 専門ゼミナール I	経営上の様々な事象に自ら問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	7名のゼミ生、学生一人一人の関心があること、経営への興味や関心の度合、学生の理解度を確認しながら指導する予定であったが、公欠申請による遠隔授業を受けた学生が使いやすいSNSツールでコミュニケーションを取った。また、個別指導や、退学意向のあるゼミ生も一緒に前期の学習を終えられたことを評価したい。	昨年は評価4.05でしたが、今年は回答率も評価も高くなった結果でした。7人中6人のゼミ生が回答してくれた。ゼミで専門を学び始める最初のゼミであり、丁寧に、個々の学生に対応できるよう心掛けています。今後も個々の学生へのきめ細やかな指導ができるよう心がけると同時に、授業内でゼミ生全員に疑問を共有し、共に考え、教え合うことを遠隔授業を希望者でもできるように工夫して行きます。	授業評価4.23 回答率55.06% 科目GPA2.57
S231024 経営管理論	経営管理論の理論的發展過程について体系的に理解できる。 管理者の仕事・役割について理解し、企業や会社で実際にマネジメントできる。 経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報など）を活用し、管理・組織化する方法について総合的に判断できる。 経営学の基本であるヒト、モノ、カネ、情報に関する知識を主体的に学ぶことを通して、企業や会社で実際にマネジメントできるようになるための管理者の仕事・役割について学習する。	今年度から1クラスに集約しての授業となり、授業回数的には負担が軽減された反面、1クラスあたりの人数は100人を超える状況となり、履修者管理の面では負担が増えた感も否めない。前回課題の返却方法は履修者に直接回収させる方式に変更し、少しでも授業時間を増やすことに努めた。	1クラスに集約した関係なのか、回答率と科目GPAの数値は昨年度よりも低下してしまっただけでなく、反面授業評価面の数値は少し上昇したが、履修者間で二極分化が生じている可能性がある。必修科目でもあるので、次年度は下位学生の底上げを意識して、課題の出題方法の変更等も検討していきたい。	授業評価4.469 回答率52.0% 科目GPA1.98
S231027 マーケティング論	達成目標 マーケティングの基礎理論について理解することができる。 授業で学んだキーワードを活用して、企業のマーケティング戦略が分析できるようになる。 マーケティングに関する基本的な理論と実態の理解を通して、企業や社会における課題発見力を身につけ、マーケティングを実践的に活用できることを目的とする。	事例と理論を組み合わせ、日常生活に身近な学問であることをわかりやすく説明して理解を促した。 極力具体的に身近なケースを提示して、イメージしやすいように工夫をした。授業を通して身につけたマーケティングの基礎理論によって、社会志向・顧客志向の実践的な判断ができるようになったと考える。	マーケティングの理論と話題の新商品やサービスのトピックスを結びつけて理解の促進を図ってきたい。商品の現物の提示や動画による事例紹介を取り入れ、テーマに対する関心を高めていきたい。	授業評価4.51 回答率57.8% 科目GPA2.44
S231028 簿記Ⅱ	会計専門用語や仕訳を理解することができる。 貸借対照表・損益計算書・株主資本等変動計算書等を作成することができる。	日商簿記検定2級の商業簿記レベルを修得することを目標とする科目である。「現代生活と会計」や「簿記Ⅰ」とは、難易度に各段の差がある。また、学習量（範囲）も多い。簿記が嫌いではないから受講している学生と真剣に日商検定を受験しようと思って受講している学生とで二極化が生じているが、個別対応が難しい。解説するテーマを絞って、できる限り丁寧な説明を心掛けた。	簿記の習得には、数多く問題を解くことが必要である。学生が自分で問題を解く時間を確保できるよう、工夫をしていきたい。	授業評価4.429 回答率58.3% 科目GPA1.69

S231029 IoT社会	IoTの発展の経緯や仕組みを理解し、説明することができる。	PCの基礎、インターネットの基礎、経営の基礎が身につくIoT社会である。学生の生活に沿って授業をしても理解がたいことが多々あった。基礎学習が必要である。普通教室の講義であるが体験させることが必要と思われる。	難しいことはやめ基礎に徹することとしたが、基礎もできていない。	授業評価4.56 回答率57.9% 科目GPA1.66
S231031 地域産業論 留学生科目	いわゆる地場産業の姿について理解することができる。地場産業の実践例を通じて、地域の産業振興に必要なことを理解することができる。他地域の地域産業の振興策を学ぶことを目的とする。	昨年は遠隔授業であったので対面での授業は初めてであった。留学生は、コロナ前にいるような地域を刊行しているのだからさまざまな地域で日本の地域活性化策が講じられていることを伝え、母国に帰っても対応できるように伝えた。	授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考えられる。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、留学生のため動画を見せるという時間は必要であり、工夫したい。	授業評価4.47 回答率47.1% 科目GPA3.82
S231033 企業法	企業法の中核をなす民法、商法と会社法の基礎知識を活用して、企業における法的トラブルの際に、企業の仕組みや規制を踏まえて正しく行動、対処することができる。ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	主に民法、商法及び会社法の分野につき、企業にかかわる法分野を扱った。できるだけ、例や身近な話題を提供し、基礎内容の把握から論点の検討を行うようにした。単なる条文の理解ではなく、立法趣旨を確認しながら、法規制の意義を把握した。ニュースや新聞記事が身近な話題は効果的であった。授業は、おおむね満足して受講してくれたようであるが、専門性が出ると難しいと感じる学生も多いので、基礎内容を何度も確認していきたい。	主に2年生が対象の科目であり、昨年度の法学概論とあわせて基礎事項を学ぶ授業である。とりわけ企業にかかわる法を扱っており、経営学部の学生としてしっかり理解すべき授業である。企業法を取り巻く広範な論点について、できるだけ多くの事例や判例を紹介しながら、実務を把握することも継続していきたい。	授業評価4.585 回答率51.6% 科目GPA2.23
S231034 スポーツ指導論	スポーツ指導者の立場や役割を理解できる。スポーツ指導者に必要なスポーツ科学の知識を習得できる。スポーツ指導の過程を理解し、その実践方法を習得できる。	可能な限り分かりやすくかみ砕いて説明をしたつもりだが、学生たちは集中が長続きせず、途中で着座した状態で休憩を入れながら授業を進めた。特にスポーツ指導の現場で実際に起きた事故やけがなどの発生経緯を経験に基づいて説明したことは、真剣に聞いてくれ、効果は上がったと感じている。また、試験では各自の意見を盛り込んだ回答を求めたが、それなりに工夫が見られ、それなりに効果はあったと思われる。	やはり、何らかの工夫がないと内容が学生に浸透せず、指導効果は上がらない。そこで、授業中に学生たちにもう少し厳しく当たっていく必要があると感じている。授業中により多くの発問やミーティングの機会を与えることで、積極的に授業に参加できる環境づくりをしていきたい。	授業評価4.56 回答率73.3% 科目GPA2.27
S231035 スポーツビジネスとマーケティング	スポーツビジネスへの対応を念頭においたマーケティングのあり方を理解できる。実際に行われているマーケティング活動に対して関心を持ち、自分自身でスポーツマーケティング戦略を考えることができる。スポーツ事業を企画・提供する基本的な内容を理解し、実践することができる。	経営分野の中でも、スポーツに関する内容について取り扱う科目となる。主に、ビジネスおよびマーケティングにおける基礎的な内容をスポーツに照らし合わせて内容を構成した。1年次における経営に関する基礎知識を踏まえた内容となるが、それらの理解度により、評価に差が出たと感じている。それまでの他の科目でも取り上げられた内容をスポーツ関連のもので考えることで、一般的な経営とスポーツの経営の共通する点や異なる点など、それらを理解した上で、スポーツの経営を捉えられるように工夫した。これらの点でスポーツに関する経営への理解度は、深まったと感じている。	授業方法として、全ての回を対面とし、希望者には遠隔対応にて実施した。授業資料や課題の内容等について、内容および資料の量を適切に保つことを意識した。達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の講義内容の量と質が必要だと考える。今後は対面授業の内容を工夫し、より理解が深まるようにしていきたいと考えている。	授業評価4.61 回答率50.0% 科目GPA1.855
S231036 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	各自の設定した課題テーマを発表し、討論を行った。学生の調べた内容、解釈レベルには限界があるものの、自ら調査し、考える力を養うことができる程度で考えた。さらに、各自のプレゼン技術もきれいに改善することができた。	今後は、4年生からの卒業研究に向けて、自分の興味のあるテーマの設定と展開について個別に指導していきたい。	授業評価4.93 回答率72.7% 科目GPA3.00
S231037 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	3年生の前期専門ゼミは、MOSのワード資格取得にがんばってきた。全員合格でき良かった。	学生自らの学習が見受けられない。今後課題等に工夫が必要である。	授業評価4.33 回答率60% 科目GPA2.0
S231038 専門ゼミナールⅢ	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培うことを目的とする。	各自で行ったケース分析の結果をメンバーで共有し、人の意見を参考にしながら思考する探求力を身につけるように心掛けた。またグループワークによって他のメンバーとの協働やディスカッションにより成果を出すことで新たな気づきや協調性が身につくように運営した。	各自が取り組んだケーススタディに加え、他の学生の発表や意見からも刺激を受け、新たなテーマに自主的に取り組むように指導を行う。その結果として、広い視野で研究にアプローチできる力が身につくことを目指したい。	授業評価4.72 回答率100.0% 科目GPA3.80
S231041 専門ゼミナールⅢ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	専門ゼミナールⅢの授業では、仮説検定について学んだ。具体的には、二項分布、二項分布に従う確率変数が与えられた条件を満たす確率、二項分布と正規分布との関係、仮説検定の考え方を説明した後に、母比率の検定の例題の解法の説明を行い、さらに受講生自身に母比率の検定の問題を作成させ、その問題を解かせた。母比率の検定とはどのような問題なのか十分理解できていない受講生が多く、個性的な問題を作成できた受講生は少なかった。	受講生が自ら調べ、納得するまで考える形式の授業に変えていきたい。	授業評価4.40 回答率90.0% 科目GPA1.90

S231042 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	MOS試験のエクセルを受験対策をした。学生は自主的に検定試験を受験して合格したという報告を受けている。	授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考える。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。	授業評価4.7 回答率44% 科目GPA4
S231043 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	履修者数は経営学部総合経営学科3年生9名であった。ネパール人留学生が2人、中国人留学生が6人、そして日本人学生が1人であった。前期は対面授業（一部の学生はオンライン授業）であったので、毎週の学習内容に従って授業を進めた。また、演習課題、および宿題等の提出状況は、きちんと提出できた学生がほとんどであったが、最後の「定期レポート試験」の文字数が不足し、合格ギリギリの得点を取った留学生が数名いた。学期の間、直接留学生に会ったり、電話を掛けて、課題の進捗状況や学生生活などについて聞くよう努めた。その結果、ゼミ生全員がこの科目に合格した。	履修者9名のうちで7名しか回答していないので、授業全体像があまりはつきりしない。また、科目GPAは2.67であったので、ゼミの成績評価としてはあまり高くなかった。このクラスは、履修学生がほとんど留学生であったので、貴重な一人の日本人学生と一緒に授業を進めることの重要性を認識することができた。	授業評価4.000 回答率22.2% 科目GPA2.67
S231044 専門ゼミナールⅢ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	課題については、毎回全員に発言してもらうようにした。前半は、法律の論点を全員で検討し、コメントするスキルを身につけるようにした。後半は、公務員試験問題などを利用して、法律の基礎問題を学習した。また、頻出のテーマを利用した論文対策では、学修スキルを高めることができた。パワーポイントに関するレポート作成課題を与え、効果的な発表指導につながった。発表する機会に限られたが、必ずコメントを求めることで意見や質問を積極的にすることができるようになった。	学習の進め方については、おおむね満足していたようである。学習の進捗を確認して進めることができた。法律の論点では、判例など具体例を用いて丁寧に解説するように心がけた。公務員試験対策では、解答のみならず、すべての選択肢を分析することで実力がついた。個人発表する機会は増やしていきたい。	授業評価4.82 回答率100% 科目GPA4.00
S231045 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	今年度はアーチェリー一部所属のゼミ生が3名入ってきたが、彼らを含め概ね真面目にゼミに取り組んでいる印象である。このまま順調にゼミに取り組んでもらいたいところである。	昨年度よりも数値的には伸びており、ゼミに対して意欲的に取り組んでいるゼミ生が多数を占めていると考えられる。この調子を維持できるかどうかが課題である。	授業評価4.90 回答率88.9% 科目GPA3.44
S231046 専門ゼミナールⅢ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	実際の企業の財務諸表をもとに財務分析を進めようとしたが、ゼミメンバーの会計知識の差が大きく、進められなかったため、上場企業の決算書を読むのに必要な会計知識を補うよう、輪読を行った。学生のプレゼンテーションに関する補足資料を用意し、時間をかけて解説をし、理解を深められるよう努めた。	ゼミナールのメンバーにあわせ、授業の進め方を変更したことが、授業評価につながったと考えられる。今後も、細やかな対応を心掛けていきたい。	授業評価4.714 回答率77.8% 科目GPA3.00
S231048 専門ゼミナールⅢ	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 経営学について多角的な観点から学習し、より専門的な経営的思考能力を身に付けます。ビジネスパーソンに必要なスキルと知識を理解していく。	教員が用意した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルについて学習した。主に、読む、書く、まとめる、といった学修スキルに加え、PC等を用いたレポート作成やプレゼンテーション資料の作成を行った。レポート作成や卒論作成に繋がる基本的なスキルの学習であるが、繰り返し行うことで、個人差はあるが少しずつ向上していたと感じている。また、PCスキルについても同様で、普段からPCを利用する機会の有無により、理解度や習熟度に差はあるが、少しずつ慣れていくことができたと感じている。	全ての回において対面形式でのゼミナールを実施した。解説と課題作成、PCスキルについての理解を深めることができるように工夫した。少人数ではあるが、今回、課題の難易度については若干高いものを選択し、卒業論文執筆へと繋がるように課題を設定した。PCの所有やスキルに差があり、実際にPCを操作する機会は少ない学生にとっては難しい課題であった可能性もあるが、今後は、これらの課題の成果を活かし、卒業論文執筆につなげていきたいと考えている。	授業評価4.67 回答率100% 科目GPA2.83
S231049 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	毎回の授業内容への理解を深めるため、各自が感想を持つテーマについて主体的に調べさせ、考えてきたことを学生同士使いやすいSNSツールを使って、ゼミ以外の時間もゼミ生とのコミュニケーションを取りながら、一人一人が学習面で困っていることに応え、学生生活を少しでも楽しく学習を続けるための意欲を持ってもらえるように、学生に寄り添うことに努めた。	いよいよ3年から「何を卒論テーマにするか」を明確にする時であり、丁寧に、個々の学生に対応するよう心掛けています。まだ満足していない学生があるようなので、今後とも「個々の学生」を視野に、授業改善に努めます。	授業評価4.60 回答率88.9% 科目GPA3.11
S231050 専門ゼミナールⅢ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできることを到達目標としている。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培うことを教育効果としている。	学生は中国、ベトナム、ネパール、インドネシア出身の留学生のみ。彼らは一年生の日本語授業等でお互いによく知っているため、和やかな雰囲気の中で授業をすることができた。ただ、専門ゼミナールⅢを担当したのは初めての体験。試行錯誤を繰り返しながらの授業ではあった。	初めての担当には、なかなかの授業評価ではあると思う。しかし、慢心することなく、常に知識と技術のアップデートを心がけていきたい。	授業評価4.88 回答率66.7% 科目GPA2.92

S231051 現代マネジメント講義 I	現役経営者の講義から、将来自分が経営者・管理者に就任した時に必要な経営実践のヒントを学び取ることができる。講義の内容を理解し、講義内容の要点をノートに的確にまとめることができる。実社会で活躍される現役経営者のお話から、経営という仕事にはどのようなことが求められるのかを学び取り、自らのビジネスパーソンとしての教養及び経営実践能力の向上に反映させることを目的とします。	今年度も課題提出はUNIPA利用という方式を継続。特に日本語能力の低い留学生にとっては有利に働く一方で、コピー行為の横行というデメリットも生じていることは否めない。また出欠確認資料に記述させる方式を採用したことで、無断で授業を抜け出したままという行為は減少した。	昨年度に比べると今年度はA評価の割合が増え、全般的な評価値も回復傾向にある。しっかりと特別講師の話を受講できる体制が整ってきたことで、受講意欲の更なる増進に努めていきたい。	授業評価4.53 回収率51.5% 科目GPA2.00
S231052 戦略思考 I	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。	スポーツ指導を戦略的な観点から総合的に論じ、思考していく授業を行っている。特に指導と暴力やハラスメント、ルールとマナー、コーチングであるべき姿とはなど考える設問を多く取り入れて進めたが、もう少し指導現場で使えるわかりやすい題材を取り入れて進めていけばより活発な議論ができたのではないかと思う。	比較的高い評価をもらえありがたいと思うが、納得する授業にはまだまだ及んでいない。グループ分けや題材にもう少し工夫をしてより活発に意見発表ができるよう取り組んでいきたい。	授業評価4.62 回収率81.6% 科目GPA2.24
S231053 戦略思考 I	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。担当教員ごとの専門科目において必要な戦略思考能力を身につけ、総合的な視点から判断できる能力を培う。	前期は、MOS試験のエクセル対策を実施した。就職した後にでも役立ち、実力を発揮できるようにするためである。7月から徐々に学生が試験に挑戦し、合格したと報告を受けている。	授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものとする。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度、個別指導の時間は必要であり、工夫したい。	授業評価4.54 回収率55.0% 科目GPA3.37
S231054 戦略思考 I	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。担当教員ごとの専門科目において必要な戦略思考能力を身につけ、総合的な視点から判断できる能力を培う。	今年度は履修者が多めで、意欲的に課題に取り組んでいる者も多かった印象である。グループ単位で発表してもらった方式の授業なので、特別配慮学生等孤立しがちな学生への対応は正直課題として残っている。	数値的には昨年度より下がってしまった。今年度は履修者が多めで、理解度にばらつきが出てしまっていること、表れかもしれない。また特別配慮学生の扱いについても課題が残っているので引き続き考慮していきたい。	授業評価4.485 回収率57.8% 科目GPA2.56
S231055 戦略思考 I	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。	テキストをもとに、企業の決算書から、その企業の戦略やビジネスモデルを探る授業を行った。受講者が、会計に関心をもっており、また少人数であったこともあり、お互いにコミュニケーションを取りながら授業を進めることができた。	企業の戦略を探るにあたり、認知度の高い企業を対象とすることで、学生の関心と理解を得ることができたように思われる。また、学生とのコミュニケーションおよび学生同士のコミュニケーションが取れたことで、学習理解が進んだように感じた。次年度においても、意見をいえる雰囲気づくりに努めたい。	授業評価4.771 回収率63.6% 科目GPA2.36
S231056 専門ゼミナールⅢ	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	卒業まで大きな問題がない学生が1名、ボーダーラインが3名、卒業が危うい学生2名、再履修生2名で、内容的には、専門ゼミナールⅢの内容に到達させるべき工夫をした。一方で、課題に真摯に取り組まない傾向が見られ、丁寧にレポートを作成する方法を伝えても、達成目標に近づけるゼミナール授業にはならなかった。	本試験合格「S」1名「C」1名を除いて、再試4名、受験不可2名。再試受験者からなんとか2名は合格させられたが、不可者は4名に及んだ。専門ゼミでは、基本的なレポートの書き方を再確認し、レポートとして最低限のレベルを求めているに過ぎず、今年度は打つ手がなかった。丁寧に、段階を踏んだ指導を継続していく以外に方法はないと考える。	授業評価3.93 回収率75.0% 科目GPA0.88
S231058 経営とソーシャルメディア	ソーシャルメディアの基本を学び、各メディアの特性を知り、企業経営にどのように取り入れていくかを理解することができる。	多くの学生がSNSを使っているが、企業として(店)売り上げにつなげることを知っていない。この授業で企業としてのSNSの使用法が理解できればよい。	SNSは個人でやっているのに経営とむつづかないのが残念である。各自ショップ経営でもやらせたい。	授業評価4.26 回収率53.5% 科目GPA1.06
S231059 金融リテラシー【開放】	金融経済に関する基礎的な知識を身に付け、生活に必要なお金に関する情報を正しく理解し、判断することができる。生涯を通じて「お金を自分の味方につけられる」ようにするために必要な金融リテラシーの習得を目的とする。	金融リテラシーの習得を基本目標として、自著である『はじめての金融リテラシー』(昭和堂 2022年)を教科書として、講義形式を基本としながら、学生に問いかけながらわかりやすい授業を進めた。毎授業の感想を出席票に記入させたところ、「授業内容がとてわかりやすい」、「将来ためになる内容」といった記述が多くみられた。	使用した教科書は本学の学生に適合させた自著であり、狙い通り授業ができたと考えている。今後は、よりその時の話題を取り入れることで、学生の興味や知識を増やす工夫を続けていきたい。	授業評価4.78 回収率67.3% 科目GPA1.81
S231060 貿易論	貿易の基礎理論、最低限の専門用語や手続きが理解できるレベルを習得すると同時に、最新の話題や事例を用いて中国をはじめとする新興国市場との貿易活動への理解を深めること。貿易・サービス・資本取引の発展によって国際経済の相互依存の度合いはどのように深化し変化しているのかを考察し、その貿易の発生するメカニズムを把握する。	貿易とは何か？なぜ貿易行われるのか？日本は国際経済の相互依存の度合いはどのように深化し変化しているのか？貿易について基礎理論的、政策的、制度的な側面から解明し、さまざまな事例(中国を中心とした)を挙げて海外との商品取引の実態とその決済方法の基礎を学びます。授業中には、ディスカッションを通じて知識の理解と定着をさせるようにしました。	昨年度の回答率71.3%よりは、今回の回答率は77.9%に、評価は昨年度の4.789より低くなったとの結果になった。次年度は貿易基礎的な部分の講義回数をもう少し増やして、貿易に関心を引くような現実の話題も取り入れ、学生の理解度を高め行く授業を工夫していきたい。貿易は身近な分野であると思うが、「難しい」という学生の声を聞くので、学生の理解度を質問等を通して把握し、わからない点を明確にして丁寧に説明し理解できるようにしていきたい。	授業評価4.58 回収率77.9% 科目GPA2.24

S231062 行政法	行政に関連する諸法律に共通する原理や仕組みについて理解し、住民として適切な法的行動をすることができる。ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	行政法にかかわる法分野の基礎的内容を扱った。できるだけ資料を活用して、身近な話題から論点の検討を行うようにした。単なる条文の理解ではなく、立法趣旨を確認しながら、法制度の意義の把握に努めた。興味を持ってもらうべく新聞記事など身近な話題を提供して、法的論点の解説にも時間を割いた。行政法を取り巻く法律関係が難しいと感じる学生が多いので、基礎内容を何度も確認してから説明するようにした。	理解しやすい具体例を挙げて、広範かつ難解な行政法の分野につき、丁寧な解説を心掛けた。行政法を取り巻く論点の理解を深めるべく、今後もできるだけ旬な話題を提供しながら、何度も繰り返し解説をしていきたい。	授業評価4.569 回答率60.5% 科目GPA2.36
S231063 国際金融論 公教必	国際金融の基礎理論を理解し、為替レートの変動など国際金融に関する新聞記事やニュースを理解できるようになる。国際金融を体系的に理解できるようになることを目標に、歴史・理論・現実をバランスよく扱う。	自著である『はじめての金融リテラシー』（昭和堂 2018年）を用いて、国際金融を理解するための基本知識をおさえたうえで、『国際金融論をつかむ』（小川英治 有斐閣 2019年）を用いた教材によって、国際収支、外国為替のしくみ、為替決定理論、世界金融危機、世界経済の変化などを扱った。具体的な事例をとりあげながら、わかり易い授業を心がけたため、毎回の出席票の記述からも、授業内容がよく理解できたとの感想が多くみられた。	授業内容は受講生のレベルに適合した内容であったが、今後はよりその時々々の話題にあった内容を多く取り入れることで、より学生の興味をひきつけるよう、改善を続けたい。	授業評価4.52 回答率62.7% 科目GPA2.58
S231064 トレーニング演習	体力の診断と問題解決の方策を助言できる能力を身につけることができる。身体状況と体的特性に応じて適切な運動プログラムを作成できる。安全で効果的な運動プログラムの実践に必要な知識と技能を身につけることができる。	「スポーツ科学概論」において習得した知識をベースに、エクササイズや、プログラミングの実践を通して、フィットネス・エクササイズの指導者として必要な技能の習得を目標としたが、基礎的な部分は理解されたものの、実践的にはまだまだ経験が必要である。知識と実践のバランスの比率を考えると実践をより多くしていく必要がある。	運動部の学生が多く、トレーニングに関しては興味をもって受講していたが、演習としては実際に体を動かす場面でなかなか乗ってこなかったことがあり、次年度は、健康志向より腹筋のポンプアップなど美的な面を強調するなど、もう少し工夫し、興味・関心を持てるような内容で取り組んでいきたい。	授業評価4.63 回答率69.6% 科目GPA2.17
S231066 卒業研究 I	自分で設定したテーマについての研究成果を卒業論文にすることができる。専門ゼミナール入門、I、II、IIIで学修したことを卒業論文にまとめるように準備する。	各自が設定したテーマについて個別指導を行った。また、途中経過について、各自で発表させ、問題点をお互いに指摘するよう促し、改善点について指導した。	今後は、各自のテーマ設定と調査開始がより計画的に進むようスケジュール管理を徹底させていきたい。	授業評価4.95 回答率50.0% 科目GPA2.70
S231067 卒業研究 I	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。	学生は、卒論のタイトル決めもなかなか進まず、就活に力を注いでいるようだ。指導方法の模索。昨年ITパスポートの学習をしていたため1名試験に合格した。	アンケートに回答する指示を忘れてしまった。学生自らの学習が見受けられない。今後課題等に工夫が必要である。	授業評価4.75 回答率44.4% 科目GPA2.0
S231068 卒業研究 I	達成目標 経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し説明していくことによって、経営能力を身につけることができる。 ビジネスパーソンとして必要な経営戦略的思考と職業的倫理観を身につけ、社会に出てから活躍できる能力を養うことを目的とする。	事例や先行研究にあたりながら卒論のテーマを絞っていき、各自の報告とフィードバックをメンバー全員で共有した。その結果として、相互に影響を与え合い、問題意識を高めることができたと考えられる。	卒論執筆の準備段階として、何を明らかにするのかという方向性を明確に持てるよう指導を行う。その上で、卒論テーマに応じて個別に参考文献の紹介や調査方法を提示し、テクニカルな指導を段階的に加えるようにしたい。	授業評価4.49 回答率81.8% 科目GPA3.64
S231071 卒業研究 I	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し説明していくことによって、経営能力を身につけることができる。	今年度は、母比率の検定、母平均の検定について理解するために必要な統計学の用語について、受講生自身が調べ、調べた内容を発表するという形式の授業を行った。平均値や分散については全受講生が十分理解できたが、連続型の確率分布より高度な内容になると理解しているのが受講生の半数ほどであった。	母比率の検定、母平均の検定について理解するために必要な統計学の用語を受講生自身が調べて理解するためには、1年程度の時間が必要なので、今後は3年生の前期からこの形式の授業を始めたい。	授業評価4.86 回答率100% 科目GPA3.17
S231072 卒業研究 I	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。財務会計に関する会計基準や会計の役割、業績評価を理解し、マネジメントに必要な専門的スキルの活用を目的とします。	国際会計に関する論文を作成すると意気込んでいたが分量が多く、その一部でも様々な問題を含んでいるため、その話をしたら、別のタイトルを考えるなど2転3転、タイトルが変わったため、完成しなかった。よって、次年度は、早めの対策を講じていきたい。	中途半端な答案を提出した学生が数名いたため、評価が下がった。次年度は、定期試験前までに完成するよう徹底指導していきたい。達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。	授業評価5 回答率40.0% 科目GPA4
S231073 卒業研究 I	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断するための能力を培う。	履修者数は経営学部総合経営学科4年生10名であった。ネパール人留学生が2人、中国人留学生が7人、そして日本人学生が1人であった。前期はすべて対面授業であったので、毎週の学習内容に従って進めることができた。ゼミ生が全て授業に出席してくれたので、授業をスムーズに進めることができた。また、課題等の提出状況は、締め切り直前に提出する学生がほとんどであった。その結果、10人の学生全員が毎週の学習に取り組み、課題と宿題、および定期レポート試験をウェブ上で提出し、この科目に合格することができた。	10人の履修学生のうち7人がかなり高い評価をしてくれた。このクラスは、履修学生全員が合格した。また、科目GPAが3.10と高かったことは、学生たちの学習に対する姿勢が素晴らしいと言え、一人の脱落者を出さず、全員が合格したクラスでもあった。	授業評価4.743 回答率70.0% 科目GPA3.10

S231074 卒業研究 I	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し説明していくことによって、経営能力を身につけることができる。マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけるとともに、将来のキャリアに必要な資格あるいは公務員試験対策を通じて、専門的スキルを培う。	ゼミ生の卒業論文の進み具合を、毎回それぞれ確認しながら指導した。ゼミの前半は、全員に共通する労働法分野の新聞記事や判例を検討し、後半は個別指導を中心とした。とりわけ最新の判例の調べ方や資料収集方法や論文の書き方を指導した。次第に、自分のテーマにつき問題点を把握できるようになった。テーマとともに、早めに卒業論文の構成を確定していたことがやる気につながった。これまでの卒業論文を紹介することで、実際の書き方を理解することができた。進捗状況の発表で、完成に向けての進め方を効果的に指導することができた。	それぞれのテーマにつき、まずは理解することから始めた。わからないことや疑問に思ったことを気軽に発言させるようにした。その結果、卒業論文を実際に書き始めることができることができた。卒業論文の完成に向け、補習を含めて適宜指導することができた。有益な文献の収集方法については、随時情報提供を進めていきたい。	授業評価4.633 回答率92.3% 科目GPA3.69
S231075 卒業研究 I	達成目標 体育・スポーツと社会との関わりに関連したテーマを設定し、資料収集、文献の読解、発表、ディスカッション、卒業論文の作成を通して、体育・スポーツに関する幅広い見識を体系的に身につける。	再履修を含め十分に卒業研究を進められる学生が2名、なんとか課題をこなせる学生が1名、十分に課題をこなせない学生が6名という構成で、思うように進まない状況であった。結果的に、再履修を含めて、合格ラインに8名達してくれた。卒業研究とするには、まだまだ課題が残っており、丁寧に指導していく必要がある。	本試験での成績が、B2、C1、D6、再試験後、B2、C6、D1という状況。昨年度の専門ゼミから、丁寧に論文に必要な知識を確認し、段階を踏んで、論文となるように進めているが、日々の授業課題をしっかりとこなしていた2名を除いて、論文を作成する下地ができていなかった。能力的に厳しい学生が多く、辛抱強く、日々の課題を通じて指導していくしかない。	授業評価4.04 回答率100% 科目GPA1.11
S231075 卒業研究 I	□ 経営学関連の問題に関連したテーマを自ら制定し、そのテーマを調査・研究し説明していくことによって、経営能力を身につけることができる。 経営学関連の学習の成果として、経営学絡みの分野の範囲内で各自卒業論文を制定し、卒業論文への準備を進めることを目的とします。そして社会に真摯に仕える能力を身につけてもらいます。	今年度よりゼミで扱う対象を経営学全般に広げたことで、卒業論文の設定も各自幅広くなり、指導する立場としてはより難しくなってきたことは否めないところである。指導できる範囲内で一人一人向き合っていく。	GPA数値は昨年度より上昇した反面、授業評価の数値はやや低下した。ゼミ生にとっては指導方針に物足りなさを感じている可能性もあり、注意していきたい。	授業評価4.644 回答率90.0% 科目GPA3.50
S231076 卒業研究 I	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し説明していくことによって、経営能力を身につけることができる。	ウェブ上の資料の切り貼りや論文を作成しようとするので、論文のストーリーの立て方や、資料収集、文献読解についての丁寧な指導を心がけた。時間をかけて、何度もやり直しをさせ、毎週報告するという形式をとった。受講者どうしで議論することもできた。	授業内容および授業方法は、受講者に概ね受け入れられたように思われる。今後も、こまめな対応を心掛けていきたい。	授業評価4.80 回答率85.7% 科目GPA3.29
S231078 卒業研究 I	達成目標 体育・スポーツと社会との関わりに関連したテーマを設定し、資料収集、文献の読解、発表、ディスカッション、卒業論文の作成を通して、体育・スポーツに関する幅広い見識を体系的に身につける。 体育・スポーツを経営学、経済学、社会学、健康科学、医学といった様々な視点から捉え、社会における体育・スポーツの意義を考え、問題点を分析し、解決策を探求していく。	前半は卒業論文の各自のテーマに沿った資料収集と資料分析を行った。そして、収集した資料についてまとめ、発表するための資料作成を行った。後半は、収集した資料をもとに、卒業論文のアウトラインを作成し、執筆を開始した。また、定期的に卒業論文や就職活動の状況確認を行った。 資料収集に苦勞する者もいたが、文献検索の方法の指導や参考資料を提供することで、資料収集のスキルはある程度身についたと思われる。しかし、収集した資料を読解し、精査することについては、もう少し時間をかけて取り組めるようにした方が良かったと感じている。また、これまでも繰り返し行ってきたプレゼンテーション資料の作成や、発表については、当初に比べ向上していると感じている。	全ての回において対面でのゼミナールを実施した。解説と課題作成、卒業論文の執筆を効率良く進めることができるように工夫した。個別に指導する機会を多くし、卒業論文に関する内容説明を時間をかけて解説することを心がけた。今後も個別指導の機会をできるだけ多くとるように心がけ、卒業論文の執筆につなげていきたいと考えている。	授業評価4.720 回答率50.0% 科目GPA2.30
S231079 卒業研究 I	日中間の文化的差異を深く理解し、中国をより深く知るための方法を身につける。自分で選択したテーマの研究結果を卒業論文にするための準備ができるようになる。ビジネス場面におけるプレゼンの前の段階として様々な前準備のやり方が身につく。	学生に個別指導をした。卒業論文の作成準備が主体となるが、各ゼミ生がこれまで学習してきたことを踏まえ、各自で自分が一番関心のあるテーマを選択、設定させ、卒業論文の進捗状況の報告と提出をさせ、ゼミ指導以外に時間は、LINEグループ通話でディスカッションを行いながら、研究を進めさせた。ゼミ生一人一人へのきめ細やかな指導には努めた。	履修者は9名で、前回の授業評価回答率は100%と比較すると、回答率が下がったが、評価ほぼ同じ結果になった。ゼミ生全員それぞれの卒業論文の進捗状況、就職活動に合わせて授業を進めたつもりだったが、今後よりゼミ生の全員の要望に答えられる授業を進めていく。	授業評価4.93 回答率77.8% 科目GPA3.93
S231080 行政政策	行政権について理解し、国や地方自治体が行う公共政策のうちこれまでの社会政策について正しく認識し、どうあるべきかを判断することができる。ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	とりわけ社会政策の分野を中心に、政策を踏まえた法分野の基礎的内容を扱った。できるだけ、身近な話題から論点を検討できるようにした。単なる条文の紹介ではなく、立法趣旨を確認しながら、法制度の意義の把握を中心とした。興味を持たせる意味で、ニュースや新聞記事が身近な話題を活用して、実際の法的問題点の解説にも時間を割いた。4年生対象の授業であり、法学のみならず経済学や経営学の議論も踏まえ、社会に出る前に多角的な視野に立つ学習として有意義な授業に位置付けたい。	資料を活用して、空欄を補充しながら進めていった。今後もわかりやすい具体例を挙げて、広範かつ難解な行政政策の分野につき、論点を絞って丁寧に解説を心掛けていきたい。複雑な社会政策を取り巻く論点について整理し、レジュメ及び授業資料を効果的に活用していきたい。	授業評価4.57 回答率46.6% 科目GPA2.92

S231082 国際経済論	貿易について理解し、貿易を通じて世界的な相互依存関係がさらに強まっていること、アジア太平洋地域との一体感がさらに進むことが理解できる。経営学の基本である経営資源（人、モノ、金、情報）が国際経済の中でどのように活用されているのかを学ぶことで、企業で実際にマネジメントできるようにする。	著書である『はじめての金融リテラシー』（昭和堂 2018年）によって基本的な国際経済の知識をおさえたうえで、『貿易論』（小峰隆夫 日経文庫）を使って、国際貿易がどのような流れで行われており、何が問題となっているのかを授業で取り扱った。具体的な事例をあげてわかり易く説明することにより、学生の理解はほぼ目標通り進んだと考えている。	扱っている内容が比較的難しいにもかかわらず、学生の評価は高いと考える。今後は、その時々話題をできるだけとりあげることで、学生がより具体的に国際経済を理解し、自分の国政経済観を形成できるように務めていきたいと考える。	授業評価4.48 回答率59.0% 科目GPA1.80
S231083 職業指導	授業の目標としては、学校・企業現場における職業指導教育業務に、誇りと自信をもって生徒を指導できるキャリア能力を身につける。教育効果としては、現在及びこれからの職業指導に必要な基礎的知識や技能を身に付け、実際の教育現場で、担任指導、進路指導できる能力や資質の向上を目指す。	4名の少人数の授業で、職業面談の持ち方の演習、職業指導の学習指導案の作成などにおいて、きめ細かな指導及びフィードバックも効果的にでき、ミニ模擬授業も実践的なものになった。	商業高校をとりまく就職環境の変化、AIを取り入れた業種など目まぐるしく変化の実態を踏まえた実践的な講義を、演習場面に授業に取り入れていきたい。	授業評価5.0 回答率50% 科目GPA3.0
L231005 スタディスキル B1	①効果的にノートを取り、授業で学んだ知識を後から自分で再現できるようにする。 ②レポートやプレゼンテーション用のレジュメやスライドの構成を自ら考え、形式にのっとってそれらを作成することができる。	スタディスキルの授業内容は、自己紹介、本学の施設紹介、ノートの取り方、文章の要約、レポートの作成の5つに分けて学ぶ。また、本学の施設紹介、スタディスキルの授業では、自己紹介、本学の施設紹介、ノートの取り方、文章の要約、レポートの作成について学習した。授業内容によっては、総合経営学科の他の科目（経営の基礎Ⅰ、情報リテラシーなど）と重なるところがあるが、学生が今後の学習で必要となるスキルであるので、重複して学習した。文章の要約とレポート作成の授業では動画を視聴させるなど授業内容が単調にならないよう工夫した。授業全体を通して、大部分の受講生は熱心に取り組んでいたと思われる。	授業に集中させるため、受講生自身が行うワークを増やしたい。	授業評価4.46 回答率74.1% 科目GPA2.32
L231006 スタディスキル B2	①効果的にノートを取り、授業で学んだ知識を後から自分で再現できるようにする。 ②レポートやプレゼンテーション用のレジュメやスライドの構成を自ら考え、形式にのっとってそれらを作成することができる。 ③図書館やインターネットを利用して課題に関連する情報を収集し、整理することができる。	スタディスキルの授業では、自己紹介、本学の施設紹介、ノートの取り方、文章の要約、レポートの作成について学習した。授業内容によっては、総合経営学科の他の科目（経営の基礎Ⅰ、情報リテラシーなど）と重なるところがあるが、学生が今後の学習で必要となるスキルであるので、重複して学習した。文章の要約とレポート作成の授業では動画を視聴させるなど授業内容が単調にならないよう工夫した。授業全体を通して、大部分の受講生は熱心に取り組んでいたと思われる。	ノートの取り方やレポートの作成方法などを身につけるためには、そうしたスキルが必要となる場面が必要であり、また個別的な細やかな指導が必要であると思われる。個別的な細やかな指導を心がけていきたい。	授業評価4.48 回答率80.0% 科目GPA2.60
L231007 スタディスキルB3	大学の授業を学生にとって意味あるものとして生かすために、基本的な学びの（学ぶための）技術であるスタディスキルを身につけさせるは本授業の目標です。効果的にノートを取り、授業で学んだ知識を後から自分で再現できるようにする、レポートやプレゼンテーション用のレジュメやスライドの構成を自ら考え、形式にのっとってそれらを作成することができる、図書館やインターネットを利用して課題に関連する情報を収集し、整理することができることを授業の達成目標とします。	高校生から大学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れることをまず、高校とノートの取り方、講義ノートのとり方、レジュメやレポート作成の方法、図書館での情報収集と活用などを大学の勉強方法がよくわかることから授業を進めてまいりました。半年だけでは短くは感じますが、それぞれ課題を自分で調べ、自分なりの答えを出すことができた授業と思います。	今後専門科目、教養科目を学び始める基盤となる授業で、丁寧に、分かりやすく、伝わるように心掛けています。評価も回答率も高い方ですが、まだ満足していない学生があるようなので、今後とも「個々の学生」を視野に、授業改善に努めます。また留学生にも分かりやすい言葉で伝えることに一層留意したい。	授業評価4.11 回答率85.2% 科目GPA2.89
L231014 情報リテラシー B3	①情報倫理を身につけることができる。 ②簡単なビジネス文書を作成することができる。 ③簡単な表計算・グラフを作成することができる。	対面授業になって受講生40人程度なのでSAI人がいれば対応できる体制を整えた。高校でPCを習得している学生がほとんどいないので少し驚いた。現状では半期だけの学習ではとても覚えきれないと思う。	モニターおよびプロジェクターの改善 自宅での予習復習にPCが必要になるので何とかしたい。	授業評価4.23 回答率88.9% 科目GPA1.85
L231021 数学と社会 B	①数学的な手法が、現代の社会の様々な場面で用いられていることが理解できる。 ②現代の社会で用いられている数学的な手法の原理について説明できる。 ③数学的手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。	インターネットを使って情報を送受信する際に使用されている暗号を題材に、現実の社会で役立っている数学について説明した。受講生の理解を少しでも深めるため、元の文章を暗号文にする計算と暗号文を元の文章にもどす計算の計算練習を繰り返した。数学と社会Bの受講生には、授業内容に興味を持っていない学生が多かった。このため、数学と社会Bの科目GPAは、3クラスのうちもっとも低い結果になった。	第10週～第13週に出題する計算練習の難易度はそのままとする一方、上級者用の問題を追加出題したい。	授業評価4.18 回答率72.8% 科目GPA1.46
L231026 英語コミュニケーションA B1	①英語基礎力を確認することができる。 ②英語4技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組めるよう、高等学校までの総復習をおこない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。	履修者数は総合経営学科1年生48名であった。前期は対面授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度から授業時間が1時間に短縮されたので、演習課題（5分以内の小テスト）は実施せず、代わりに自宅に演習課題を持ち帰って、独力で取り組んで、次週の授業開始前に提出する方法を採用した。その結果、履修学生が毎週の学習や課題、宿題に取り組む、定期レポート試験をウェブ上で提出し、約75%が学生がこの科目に合格した。一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。しかし、本来の英語の授業は音声を使って、ペアワークやグループで英語を使いながら学習を進めることがほとんどできなかったのは残念であった。	60%以上の学生が高い評価をしてくれた。この科目には、総合経営学科1年生48人のうち、70%以上の履修学生が合格した。今後は、一人の脱落者を出さず、全員が合格できクラスを目指したい。	授業評価3.968 回答率52.1% 科目GPA0.94

<p>L231028 英語コミュニケーションA B3</p>	<p>①英語基礎力を確認することができる。 ②英語4技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組みめるよう、高等学校までの総復習をおこない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。</p>	<p>履修者数は総合経営学科1年生35名であった。前期は対面授業を、一部「公欠」の学生にはリモート（オンライン）授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度から授業時間が1時間に短縮されたので、演習課題（5分以内の小テスト）は実施せず、代わりに自宅に演習課題を持ち帰って、独力で取り組んで、次週の授業開始前に提出する方法を採用した。その結果、履修学生が毎週の学習や課題、宿題に取り組み、定期レポート試験をウェブ上で提出し、約80%が学生がこの科目に合格した。一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。しかし、本来の英語の授業は音声を使って、ペアワークやグループで英語を使いながら学習を進めることがほとんどできなかったのは残念であった。</p>	<p>80%以上の学生がかなり高い評価をしてくれた。この科目は、総合経営学科1年生35人のうち、80%以上の履修学生が合格した。今後は、一人の脱落者を出さず、全員が合格できるクラスを目指していきたい。</p>	<p>授業評価4.571 回答率40.0% 科目GPA0.77</p>
<p>L231036 日本語中級</p>	<p>基本的なやりとりを超える程度の日本語を運用することができる。日本語能力試験N2以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。</p>	<p>授業の基本は、テキストにある語彙や文法項目を応用して、さまざまな話題を展開したり、例文を紹介したりすること。さらに読解や聴解演習に真摯な態度で取り組むように導くこと。学生は中国出身二人(男一人、女一人)のみだったので、私の持っている中国語の知識を利用して、翻訳演習も取り入れた。そのおかげで学生の驚くようなミスを見つけ訂正することができた。学習者の母語が単一であることのメリットが活かされたと思う。</p>	<p>学生二人の授業だけあって、きめ細かい対応はできた。コロナ明けは学生数が増加し、しかも多国籍になるので、それに応じたやり方を工夫しなければならないと思う。</p>	<p>授業評価5.0 回答率50.0% 科目GPA4.0</p>
<p>L231037 日本語上級</p>	<p>日常的な場面だけでなく、より幅広い場面で使われる日本語を運用することができる。日本語能力試験N1以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な優れた日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。</p>	<p>授業の基本は、テキストにある語彙や文法項目を応用して、さまざまな話題を展開したり、例文を紹介したりすること。さらに読解や聴解演習に真摯な態度で取り組むように導くこと。学生は中国出身二人(男二人)のみだったので、私の持っている中国語の知識を利用して、翻訳演習も取り入れた。そのおかげで学生の誤った理解や表現を訂正することができた。学習者の母語が単一であることのメリットが活かされたと思う。</p>	<p>学生二人の授業だけあって、きめ細かい対応はできた。コロナ明けは学生数が増加し、しかも多国籍になるので、それに応じたやり方を工夫しなければならないと思う。</p>	<p>授業評価5.0 回答率50.0% 科目GPA4.0</p>
<p>L231038 現代日本の文化研究</p>	<p>レベルの高い日本語の文章に向き合い、その内容や論理展開についてより深く理解することができる。読解力の基礎となる語彙力と文法力を増強し応用力を養うことができる。現代日本の文化についての理解を深めることができる。以上3点を到達目標としている。上記の目標に沿うべく、現代日本の企業社会で使われる独特の日本語表現を学ぶことを教育効果としている。</p>	<p>学生は3年生と4年生。国籍は中国・ベトナム・ネパール・インドネシア。本学で学びに慣れている者ばかりだが、気を抜かずになるべく理解しやすい言葉を使った。ビジネス関係の日本語、日本のビジネス習慣などについて詳しく紹介し、丁寧に解説した。多国籍の強みを活かし、「日本ではこうだが、あなたの国ではどうですか」という質問を何度も何度も繰り返した。比較のおとなしい学生ばかりだったが、授業には積極的に参加してくれたと思う。</p>	<p>ビジネス社会についての知識は自分自身ブラッシュアップしていかないといけないと痛感している。教科書の内容をどれだけ補足していけるかが重要だと思うので、努力したい。</p>	<p>授業評価4.5 回答率43.5% 科目GPA2.74</p>
<p>L231040 スポーツA B</p>	<p>達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を探索する。</p>	<p>種目としては硬式テニスを実施した。履修者数は22名であり、使用するコート数に対して適正な人数であった。授業方法としては、全ての授業回を対面方式にて実施した。授業時間90分のうち実際に活動するのは60分程度で、残りの30分は本時の説明や移動等となる。対面（実技）では、基礎技術の習得、ルール・戦術の理解、ゲーム運営を、実際のゲームにおいて、実践・発揮することを目指し、基本的な技術・理論を解説し、実践した。そして、解説した内容を受講ノートとしてまとめ、毎授業時に対面にて提出することで理解を深めることを目指した。技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、実技時間を配分をより増やすことが、技術の理解と実践には必要であると感じた。ただし、高温となる時期は、屋外での活動については検討が必要である。</p>	<p>授業評価に関しては、回答率を考慮すれば、概ね達成目標を達成することができるのではないかと考える。達成目標に対する授業評価を高めるには、実技の時間をより確保することは必要であり、状況に合わせて授業展開できるように工夫していきたいと考えている。</p>	<p>授業評価4.66 回答率78.0% 科目GPA2.28</p>

L231040 スポーツA B	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	達成目標では、基礎技術の習得、ルール・戦術の理解、ゲーム運営を、実際のゲームにおいて、実践・発揮することとされており、90分の対面授業で、達成目標を達成できたと考える。 技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、そのためには、ある程度の時間を要する。運動能力の高い学生が多かったが、授業内容を楽しみながら学んでもらえたと考ええる。 Sは5名。超欠2名、不可は評価点不足2名であった。	受講ノート、課題の記述能力に難があり、評価自体は、B,Cが少なくなかったが、達成目標は十分に達成できた。 次年度も丁寧に指導していきたい。	授業評価4.65 回答率78.0% 科目GPA2.17
L231043 デジタルデザイン表現 B	①コンピュータによる画像編集、映像音響編集について複数のソフトウェアを操作できる。 ②複数のソフトウェアを操作し、課題の制作に取り組むことができる。 ③リッチメディアの可能性について理解し、コンテンツ制作に取り組むことができる。 デジタルデザイン表現に必要な知識、技術の実践により必要な技術や知識の主体的な調査と学習を通して企画したコンテンツを制作する。 条件を検討し、企画した内容をリッチメディアでの表現を自己開拓しながら利用できるようにしていきます。	達成目標に定められた複数のソフトウェアを用いながらコンテンツ制作を学ぶためには、ソフトウェアごとの操作を知り、コンテンツとして構成する細かい要素を制作し、また別のソフトウェアでオーサリングするプロセスを経た。コンテンツ制作についての概念を学びながら、アイデアを検討しながらソフトウェアの使い方を同時並行的に理解することは大変困難を極めた。デザインプロセスにある程度触れたことのある学生は、全体像を俯瞰して捉えることもできていたが、そうでない場合は、その場、その場のタスクを細かく達成していくことが精一杯の様子であった。	使用するソフトウェアと、制作する要素の絞り込みと、段階的にコンピューターを用いたデザイン表現に関連する知識を織り交ぜた展開に改善する。	授業評価3.929 回答率52.1% 科目GPA2.13
L231045 法学（日本国憲法）B	日本国憲法における基本的な知識について理解し、法的問題に際し適切な法的思考や解釈をすることができる。日本国憲法の基本精神を学び、条文の趣旨を正しく解釈することを目的とする。	日本国憲法を取り巻く基礎的内容を扱った。経営学部が対象であり、それまで学んでいる法学習の基礎を確認した上で、できるだけ多くの法律と身近な話題を用いて、論点の検討を行うようにした。単なる条文の理解ではなく、立法趣旨を確認しながら、条文の意義の把握に努めた。新聞記事など身近な話題を提供して、法的論点の解説にも時間を割いた。毎回学んだことをまとめるべく、コメントをしっかりと記入している学生が増えており、大半の学生は授業内容を理解してくれたようである。法律用語や判例の検討が難しいと思われるため、丁寧な説明を心掛けた。	できるだけわかりやすい具体例を挙げて、広範な日本国憲法の分野につき論点を絞って丁寧な解説を心掛けた。日本国憲法を取り巻く論点の理解を深めるべく、資料や判例を用いながら様々な意見に触れてもらい、自分の意見を持つようしていきたい。	授業評価4.462 回答率61.1% 科目GPA2.07
L231050 健康・運動の科学 B	達成目標 ①健康に関する様々な知識・考え方を理解できる。 ②自分にあった健康処方・運動処方をデザインできる。	課題は、前回授業の小テストを授業冒頭に行う形で、その内容が成果評価の筆記試験につながる形式としている。一部の過年度生など、さぼってしまう習慣のある学生にとっては、十分に対応できなかったと感じる。 逆に、授業を休まず、課題（小テスト）に取り組んだ学生は、評価点も含め、達成目標に近づけたと考える。 評価全体としては、S,Aの比率が少なかったのは想定外であった。 合格率に関しては、評価不能（受験不可）5名に加えて、再試対象者26名のうち、再試提出者8名（合格6名）であったのが、全体の合格率（GPA）を下げる要因となった。	例年、欠席が最も評価に影響することは指導している。次回授業で実施する課題（小テスト）に関して準備しておくこと含め、丁寧に指導していきたい。 欠席した場合でも、全員に補充課題で学修できるように配慮しているが、欠席をしてしまうと、その指導も難しい。興味を持って受講できるよう配慮していきたい。	授業評価4.05 回答率85.2% 科目GPA1.11
L231053 キャリアデザイン I	自己のこれまでの経験・学びについてまとめ、伝えることができる。自分軸を形成することができる。自己に必要な知識や能力が認識できる。	大教室での授業はどうしても学生個人個人に目が行き届かず、学生の自主性に期待する部分が多い。しかし、本講義は学生本人にとって差し迫った問題であり、真剣さを期待したが、どこか他人事と捉えている学生がまだまだ多いようである。昨年同様に多くの学生に声をかけながら進めてきたが、その点で、現実の厳しさも教えていく必要があると感じている。	講義の後半は集団面接を実施したが、学生自身は実際に取り組んでみると真剣になり始める。しかし、学生によっては欠席も多、く面倒な講義は欠席するなど避ける傾向がみられた。次年度は、実践の重要性をしっかりと伝え、臨みたい。	授業評価 4.41 回答率61.7% 科目GPA2.15
L231054 キャリアデザイン I	自己のこれまでの経験・学びについてまとめ、伝えることができる。自分軸を形成することができる。自己に必要な知識や能力が認識できる。以上3点を到達目標としている。学科の学びに関係した仕事について理解し、就職活動の準備をすることを教育効果としている。	三年目の担当ということで前年度に比べて技術的な進歩を感じることができた。パワーポイントの内容もアップデートした。模擬面接授業については、前年度と同じく数多くの外部講師全員を自分一人で手配し、大きなアクションもなく順調にこなすことができた。多くの学生がキャリアデザインに関する基礎的な知識を身に付けたと思う。	授業評価4.617は前年度より上がっている。しかし、慢心することなく、さらなる技術的な向上を目指して努力したいと思う。	授業評価4.62 回答率50.0% 科目GPA2.69

L231060 中国語A B	中国語の発音、基本的な文法を学習するとともに、実践的な状況、例えば「中華料理を食べる」をテーマに実践的な会話能力を磨きます。語彙力と表現力を養い、基礎会話能力を養成します。同時に、中国社会への理解を深めるとともに、中国語学習への意欲向上を図り、「中国語」の基礎固めを行います。中国語の発音構造や特徴を理解し、簡単な挨拶表現ができる。中国語の基礎的な会話をする事ができる。中国語の側面にある文化を学習し、中国社会への理解を深めることができる。	経営学部対象のクラスで、特別配慮希望者でも学びやすいように、本来対面授業で使う予定であったPPT資料をUNIPAの授業資料で配信し、また教科書、付属のCDと併せて学習する方法で実施した。語学では遠隔授業は対面授業にはかなわないことを実感した。本講義では中国語の初学者を対象とし、文法の説明は最小限にとどめて、発音練習を中心に、中国語を多く聞き、たくさん話し、中国語への興味を育みながら楽しく学習させた。特に、日常の身近なテーマや場面で、学生が自分の意志を中国語で表現することや、中国語を話す楽しさを実感してもらった。テキストを1週で1課ずつというゆとりとしたペースで進めた。また附録の「決まり文句」を確実に身につけさせた。授業時間外で複数回の演習問題を行わせ、授業の内容について振り返りをしてもらった。教科書の付属の「別冊問題集」を使用した。	履修者は93人で、2名特別配慮学生で、昨年度の授業改善アンケートの結果より高い評価になり、回答率もアップとの結果になった。今後も受講者全員参加型の授業ができるように工夫していきたい。	授業評価4.451 回答率72% 科目GPA1.81
Q231001 教育行政	現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連するさまざまな課題を理解する。 学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。	制度、教育法規の一方面的な説明にならないよう、グループ討議、発表というアクティブラーニングを講義に取り入れるように工夫した。毎回の授業課題においては、授業の振り返りとして、200字程度の論述を課した。これらの工夫により、学生の思考、判断、表現力の向上が見られるようになった。	教員採用試験で課される内容が多く、学生に知識をつけさせる必要があることから、じゅうぶんなグループ討議の時間を取れなかったことから、教材の精選と構造化を図りグループ討議の時間を確保していきたい。	授業評価4.6 回答率65% 科目GPA3.2
Q231002 特別支援教育A、D、B	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児児童生徒が授業において学習活動に参加し、生きる力を身につけることができるよう支援していくための知識や組織として活動することの大切さを学ぶ。	教育基本法の理念を学び、古来から日本人の持つ倫理観、障がい観を身につけて欲しいと願い指導に当たった。「目隠し歩行体験」によって当たり前にできていることが急になくなったときの喪失感と普段の生活のなかで自分たちがいかに視覚に頼った生活をしているのかということを実感できたのではないかと感じている。	人数が多く、十分な話し合いの時間が持てなかったことが少し悔やまれる。次年度は同じくらいの人数であっても話し合いの持てる時間を多く取っていききたいと思う。障害者本人が語っている動画を多く視聴したのでなんとなく、高校時代にそのような子もいたなという感想もあり、自分事として捉えてくれた学生も多かった。自身が中学校時代に「交流教育」を体験した学生もおり、人としていかに接していくことが大切であるかという点を次年度、重点的に話していきたい。	授業評価4.5 回答率47.1% 科目GPA2.0
Q231005 公民科教育法Ⅱ	授業の目標としては、学習指導要領に示された公民科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計や学習評価、授業改善を行う方法を身に付ける。教育効果としては、学習指導案の作成や模擬授業および教材作成などにより指導分野の理解を深め、学校現場で通用する指導力、実践力の育成を目指す。	公民科の授業をする上で、本学の学生が不足している教科の知識を補うことができず、また、指導案の作成および模擬授業では授業の構造化がうまくできずメリハリのない授業が多いのが反省点である。学生の模擬授業で、ICT機器を効果的に使用したり、発問をうまく活用できた点は評価できる。	公民科の基礎的な知識を確認する課題を与えて教科に関する知識を補うことなどを考えていきたい。学生が行う授業で学習目標を明確にするために、その授業に対応する評価問題の作成指導を通じて学生に示していきたい。	授業評価4.6 回答率50% 科目GPA3.5
Q233001 教育実習	授業の目標としては、実習校で、教科指導、生徒指導を中心に実践的な能力の育成を図る。教育効果としては、学校現場において、教科の知識、指導技能、面談技能など実際の教育現場で対応できるようになることを目指します。	この科目、すべて教育実習校で行われる授業であることから、大学の担当教員としての自己評価はないが、教育実習中の巡回指導において学生との面談や指導教諭との連携はできた。	教育実習に対する事前・事後指導において、現在の教育現場に即した実践的な指導の場面を取り入れた工夫を図っていきたい。	授業評価3.8 回答率22.2% 科目GPA(通年科目のため前期評価未確定)
Q233002 事前・事後指導	教師としてふるまい、学習指導案の作成と生徒の前で授業や生徒指導などできることを目標としています。教育実習において教科指導、生徒指導、事務的業務などをスムーズにできるようなる実践力を身に付ける。	林達明先生の補助的な役割で入っている。個人的に採用試験の小論文指導や指導案の作成法、教員としての心構え等について指導した。達明先生のきめ細やかな指導に私も触発される部分を多く得た。今後の指導に生かしていきたい。	教員になってくれた学生に感謝しておきたい。ただ、社会人としての心構えが十分でないものを感じるため、この部分での指導を次年度生かしていきたい。	授業評価4.0 回答率22.28% 科目GPA2.0
Q233002 事前・事後指導	教師として振舞い、学習指導案の作成と生徒の前で授業が出来る指導と実践ができる。実習生は学ぶ生徒である立場と教える先生の立場とを兼ね備えるという視点から、この二つの立場の本質を理解することを重点にする。外部の学校での実習に臨むために、教育実習生としてふさわしい態度、言葉づかい、あいさつ等一般社会での常識を習得し、人間性を磨くことも目指す。	学習指導案の作成、模擬授業の実施、担任としてのクラス業務の把握なども高いレベルで実施でき、学生もある程度の自信をもって教育実習の取り組みことができた。また、実習中の流れと心得を実践レベルでまとめたパワーポイントの教材の配信は学生に好評であった。	授業評価にみられるように、学生が達成目標や成果がある程度得られたことから、さらに実際の学校現場で授業、担任業務に対応できるように、ICTなどを使用した実践的な学習課題の工夫や模擬授業の実施などを考えていきたい。	授業評価4.0 回答率22.2% 科目GPA(通年科目のため評価未確定)
U231003 コミュニケーション・スケッチ B	観察、思考、実践を繰り返しながら、人の視覚を理解し視覚伝達の有効性を理解していく授業。描かれるもの、描くことの上達を目標とはしていない。	興味のあるなしで理解度に大きな差が出てくる。80%の学生が理解し興味を示してくれたらというのが目標だったが、およそその目標は達成できたと考えている。	受講する学生が視覚伝達に興味を持っていない事を考えると、それなりにやれた授業だったと考えられる。解説やデモンストレーションの見せ方などは来年度に向けて改善を考えている	授業評価 回答率 % 科目GPA
U231004 コミュニケーション・スケッチ B	観察、思考、実践を繰り返しながら、人の視覚を理解し視覚伝達の有効性を理解していく授業。描かれるもの、描くことの上達を目標とはしていない。	興味のあるなしで理解度に大きな差が出てくる。80%の学生が理解し興味を示してくれたらというのが目標だったが、およそその目標は達成できたと考えている。	受講する学生が視覚伝達に興味を持っていない事を考えると、それなりにやれた授業だったと考えられる。解説やデモンストレーションの見せ方などは来年度に向けて改善を考えている	授業評価 回答率 % 科目GPA

<p>U231006 色彩学 B</p>	<p>達成目標 ①自然科学的な色彩を成り立たせている仕組みや、人間が色彩をとらえる方法を知っている。 ②色彩がもたらす心理的な効果や社会的な効果を知っている、 ③色彩の理論を生かし、配色を計画することができる 様々な学問領域に関する色彩について、基礎的内容（カラーコーディネーター検定、色彩検定の3級レベル）を正確に理解することを目的としています。</p>	<p>プロジェクタの演色性が低いため、スライド資料を手元のスマートフォンで見る学生も多い。教室後方に座す者のなかには資料ではなくゲームをしたりマンガを読む者も相当数いると思うが、昨年とは違って静かで、受講ノートの記述や課題への取り組みもよくなった印象がある。丁寧にしっかりとした受講ノートを書く学生が数名おり、コメントを書く楽しみもあった。資料の事前配信はいうまでもなく、受講ノートのフィードバックも間を置かずに行えた。</p>	<p>レクチャーとワークの時間配分とコンテンツの見直しも行う。色彩学の基礎知識を教える他、カラーセラピー、カラーマーケティングとデザインの領域から興味を抱いてもらえそうなトピックをさらに工夫したい。</p>	<p>授業評価4.22 回答率61.7% 科目GPA</p>
<p>U231012 産業クリエイション基礎 高大連携</p>	<p>三河地域に関する伝統的なものづくり産業と現在の最先端技術の繋がりについて理解することができる。 三河地域の伝統的なものづくりとその構造変化について理解することができる。</p>	<p>今年度より姉妹校以外の提携校の生徒も受け入れを開始した。履修者が劇的に増加した訳ではないが、この授業を機に生徒同士が仲良くなったケースが目立ったので、思い出作りとしても機能したのではと考える。</p>	<p>昨年度GPAに比べれば、数値的には元に戻ってきたといえる。今年度はメンバーに恵まれたこともあって雰囲気良かった。次年度もこの楽しい雰囲気を創れるかどうか課題である。</p>	<p>高校生対象の授業のため授業評価アンケートの数値無し。科目GPA2.73</p>